

10.まとめ

近年食の外部化が急速に進み、中食（なかしょく）²¹として温めるだけの惣菜の利用も増えている。調理の機会は確実に減って、家庭調理をめぐる環境は大きく変化してきた。

一方、食べるということの本来の楽しさや豊さが改めて見直され、スローフード運動が、世界的な広がりをみせている。

食環境が大きく変化してきた現代においては、「調理を通じて脳を鍛えることができる」と考えられることや、「親子クッキングが子供の情操面や抑制力等、情緒の安定に結びつくと推測される」という本実験によって得られた調理の効用は、生活者自身が、調理に新しい価値を見出す良いきっかけになると考えられる。

したがって創業以来長く料理の普及を通じてお客さまの生活に関わってきた大阪ガスにとって、本実験で実証した調理の効用を広く訴求していくことは、お客さまの生活に寄与する新しい「料理活動」の一つであるといえるだろう。

なお、本実験については、東北大学川島研究室から2005年6月第11回国際ヒト脳機能マッピング学会（トロント、カナダ）で発表される予定である。

21 中食（なかしょく）はコンビニやスーパー、百貨店等のテイクアウトで販売される弁当や惣菜、おにぎり等、調理をせずすぐに食べられるものを買ってきて家庭や職場で食べる食事をいう。対して従来の家庭で作って食べる食事を内食（うちしょく）と使いわけている。
